

4 支援者レポート

いわて生協

野口 拓哉（コープかながわ） **期 間** 6月6日～7月1日 **支援先** けせん支部

配属初日、被災地である大船渡市、陸前高田市に行きました。そこには自分の想像を絶する風景が広がっていました。そこがスタートラインとなったのです。

仮設住宅の訪問件数は420戸、再訪を含めると1,000件以上です。当初は目標数値がなかったので、ユーコープの真柄さんと2人で話し合い、最低1日2件と決めました。その結果、ぎりぎり達成できました。

支援活動で気づいたことですが、新設の仮設住宅を訪問する際は、最低2週間後にするといっていました。入居後1週間ぐらいただと支援物資がたくさんあったりして、落ち着いて話を聞いていただけません。また、これから支援に入る人には、ある程度加入説明をレクチャーした後、実際に加入説明をしているところを見せるといいのではないのでしょうか。要点を押えた説明の様子を見ることで仕事の効率がよくなると思います。

いわて生協には、これからも生協で働く職員、パートさんを大事にするよう期待します。けせん支部では、支部長を中心に一人一人に声をかけ、震災後だというのに皆笑顔で生き生きと働いています。人柄は教えるのではなく、育てるものだと思います。人を大切にする運営を続けてください。

山下 聡（ユーコープ） **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** けせん支部

仮設住宅訪問の時に、最初は厳しく断られるだろうと思いましたが、皆さん思ったより表情明るくお話していただきました。近くにスーパーがあっても混雑して入れない時もあることやタクシーや自転車で買い物をする方もいました。その中で、生協の宅配が一人でも多くの方に役立てばという気持ちで日々活動を行いました。仮設住宅を訪問してお聞きしたのは、移動販売を望む声でした。移動販売が行われた地域では好評だったことが分かりました。また、拡大活動は仮設住宅の入居時期に合わせて配置人数を決めるといいと思いました。

いわて生協の方には、このまま常にお役立ちの気持ちで活動を継続していただきたいです。

山田 一広（ユーコープ） **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** けせん支部

ニュースの映像などで知っていることと実際に見た現地の様子は大きく違い、被災地が震災から4カ月経っても状況があまり変わっていないことに衝撃を受けました。そのような中、仮設住宅訪問や被災地域でのお見舞い活動を行いました。岩手の方々はとてもいねいに話を聞いてくださり、神奈川から支援に来ていることを知ると逆に「大変でしょう」「ありがとう」などと励まされるあり様でした。皆さん、震災当日から大変な思いをして、やっと仮設住宅に入れて落ち着いたとのこと。皆さんの前向きなお話を聞き、少し安心もしました。多くの方から「生協の支援で助かった」という感謝の言葉をいただき、いわて生協の組合員委員さん・職員の活動に頭が下がりました。改めて生協のお役立ちの意味を実感しました。

訪問活動については、仮設住宅の入居時期に合わせ、配順と配送コース増を計画し、8月以降の支援の方がより良かったと思いました。

私たちは自生協に戻り、今回の体験について組合員さんや職員に伝え、今後長期的に義援金の取り組みなどの支援活動を行っていきます。

上田 四郎 (ユーコープ) **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** けせん支部

移動販売を手伝った第1週目は暑い日が続きました。荷降ろし、店づくり、販売、店じまいと大変手際よく行えましたが、体には少々こたえました。「生協が来たから部屋から出られた」「仮設住宅の他の人と話げできた」との声も聞かれ、役立ったと思います。訪問を始めてみると、空き、不在も多かったのも、何度も回ることも、時間帯をずらして訪ねるなど工夫が必要だと感じました。ただ、ぞんざいに断られることはなく、いわて生協の認知度、信頼度の高さに驚きました。震災前から利用されていた組合員さんのロイヤリティは高く、個配の利用や仮設住宅での班づくりに大きな力を発揮してくれています。もっと生協の活動と事業の財産にできるのではないかと感じます。

課題は注文書です。お年寄りには個配を期待されましたが、注文書の字が小さくて読めない、書けないと言われました。もっと簡単にお年寄りが注文できる方法・工夫はないでしょうか。チラシも紙数、字を少なくし、商品の提供単位も少なくすることが必要だと思います。仮設住宅にお住まいの方へ共同購入、個配のメリットをお伝えするチラシも1枚にして字を少なく、インパクトのあるものにできないでしょうか。

いわて生協の方には、仮設住宅でお住まいの方々の2年間をもっと人間らしく、いいコミュニティにするために、商品、生活必需品の提供をベースに変化もつけ、もう一回り発信するもの、受信するものを拡げていってください。けせん支部の皆さん、本当にありがとうございました。

竜崎 浩 (ユーコープ) **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** けせん支部

被災地の皆さんには元気に対応していただき、私たちの話を聞いてくださいました。また貴重な体験もお話くださって感謝しています。神奈川に帰って、この体験について写真を見せたり、お聞きしたことを話したりして伝えていきたいと思っています。

明治、昭和の大津波を超える未曾有の災害に対して、いわて生協がこの機会をバネに大きく発展することを心から願っています。

真柄 敬太 (ユーコープ) **期 間** 6月6日～7月1日 **支援先** けせん支部

仮設住宅を中心に訪問し、様々な人から生協への感謝の言葉をいただいた時は、生協が地域の方や組合員さんのお役に立っていることを実感しました。訪問先では部屋に上がらせてくださった方が何人もいて、地域の温かさを感じました。

支援活動については、期間中の数字目標を明確にした方が良いと思いました。プレッシャーを与えないようにと気を遣う必要はなく、支援者にとっても目標がある方がやりがいがあると思います。

けせん支部の皆さんには親切に接していただき、大変楽しく活動することができました。配達を担当者にも声をかけていただき、感謝しています。被災地の復旧、復興に向けて、生協は地域の方にとって必要な存在です。一日も早く震災前の利用人数に戻ることを期待しています。「がんばっぺ いわて生協」「がんばっぺ けせんセンター」。個人的には5年後、10年後に再びこの地を見てみたいと思っています。

近藤 浩之 (コープにいがた) **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 花巻支部

花巻で過ごした拡大行動の日々、初めは営業力が試されると緊張しました。しかし、タスクメンバーの素晴らしいチームワークに支えられ、また訪問先のお宅での方言まじりのコミュニケーションが花巻の温かい土地柄を感じさせてくれ、楽しく終えることができました。

花巻で活動して思ったのは、生協の認知度がそれほど高くないことです。生協は値段が高いと思っている方が多いようです。ネックはサービスなのか、手数料なのか。気軽に利用できる工夫が必要でしょう。また、県外から転居されてきた方に、花巻にはなぜ生協の店がないのかと聞かれました。岩

手県の内陸では盛岡市から奥州市の間だけ店舗がありません。スーパーやディスカウントショップに打ち勝ってぜひ出店してほしいと思います。

花北支部は神支部長のきめ細かなリードのもと、各チーフとのコミュニケーションが密で素晴らしい運営がされていると思いました。そんないわて生協全職員のチームワークと地域の方の温かい心があれば復興への大きな力になると確信しています。ケッパレいわて生協！

田中 広（とちぎコープ） **期 間** 6月6日～8月5日 **支援先** 花巻支部

私の営業スキルを考慮して支部での営業の流れにうまく組み込んでいただき、単独で行動する以上の成果を残すように使っていただきました。花巻支部のメンバーと一体感があり、大変良い経験となりました。

沿岸部の被災者の方は、それ以外の地域の方と反応が違っていました。赤ちゃんがいる方などには生協のお役立ちが特に有効でした。過去の未集金がある方は本人の要望があっても実質再開不可能で、是正された場合には再開のハードルを低くできると良いと思いました。

支援先生協の方々には、支援者も充実感を得られるよう大変な配慮をいただいたと思います。しかし、遠慮せずに成果が最大になるよう支援者を使ってくださって良いのではないのでしょうか。どのような活動が有効だったか分析や総括をして、教訓として発信していただければありがたいです。

いわて生協はこれから長くかかるであろう岩手の復興のために大きな役割をはたしていくことと思います。またお手伝いできるチャンスがありましたらお声をかけてください。

米川 浩之（いばらきコープ） **期 間** 6月6日～7月1日 **支援先** 釜石支部

仮設住宅を中心に訪問しましたが、津波により家屋や家族を失った方々が懸命に生活している姿にこちらが勇気づけられました。

今回は、宿泊地と勤務地の距離が離れており、効果的な活動ができにくい面もありました。夕方の在宅時間に訪問ができれば結果は多少違ってくると思いました。いわて生協で短期間に利用者の回復を目指すのであれば、優遇制度のさらなる充実（被災者支援サービスの無料化）を検討してみてはいかがでしょうか。

この経験で、個人的には家族と離れて生活してみると家事の大変さが分かるなどいろいろなことを学びました。今後の仕事につなげていきたいと思えます。長いようで短い4週間でした。

稲留 四郎（コープかごしま） **期 間** 6月6日～7月1日 **支援先** 釜石支部

最初の2週間は訪問して断られるばかり、何が悪いのか思い悩む日々でした。後半は、地元の方にお話を伺おうということに重点を置いたら少し前進し、利用して下さる方も出ました。

残念なのは、留守だった方には夕方の再訪が有効だと思いますが、通勤時間が2時間近くかかり事務処理時間もあって、訪問活動が十分にできなかったことです。

いわて生協は地域の核として組合員さんや地域の方々の身近にある生協として認知されていますが、もっと多くの方に知ってもらい、利用者を増やしていただきたいと思えます。

浜田 睦（コープかごしま） **期 間** 6月6日～7月1日 **支援先** 釜石支部

組合員さんや地域の方々は生協をととても良く思ってくれていること、皆さんが本当にかんがっていることが分かりました。

最初の1週間にもう少し早めに地域を訪問すればよかった、期間をもう少しいただければ良かったと思えました。訪問件数を増やせなかったのが残念です。訪問に関しては、仮設住宅の地図を早めにご覧いただければ助かるはず。また訪問担当者の人数が増えると、その割り振りも大事。訪問地域に

ばらつきが出ないように、担当者は訪問後地図を交換するといっています。

いわて生協の皆さんが被災したにも関わらずがんばっている姿に、共同購入の現場の基本を感じました。今後とも力を合わせ「生協にしかできないこと」を進めていってください。

重田 一樹 (コープかごしま) 期間 7月25日～8月5日 支援先 釜石支部

震災以降、何か自分にできること、役に立てることはないかと思っていました。自分の目で被災地の状況を見、被災された方の声を聞く度に胸の詰まる思いでした。

支援活動は2週間と短いものでしたが、その中で各チームの活動エリアが明確になっていない点がありましたので、今後の課題と考えます。しかし、私は少しでも仲間づくりの取り組みに貢献できたことを嬉しく思います。今回の取り組みで、全国の生協は一つなんだと実感することができました。またお役に立つことがあればお手伝いしたいと思います。応援しています。

武原 光秀 (コープかごしま) 期間 7月4日～8月5日 支援先 釜石支部

釜石市、大槌町の仮設住宅を訪問しましたが、周囲に店のない所では、買い物に困っている方が多いようでした。訪問時にお会いできず、ポストに入れたチラシにつけたハガキが翌週に返って来るといふ経験は今までありませんでした。生協の個人宅配のニーズの多さを感じました。

課題としては、オリエンテーションで教えられた書類手続きと実際に支部で記入することが違っていた上に、支部長は不在で誰に聞いていいかわからず、数日戸惑った状況でした。同じような支援活動がある時は、誰が教えるか明確にした方がよいと思いました。

高橋 則文 (共立社) 期間 6月20日～8月5日 支援先 釜石支部

最初はけせん支部のローラーから始まりました。釜石では仮設住宅のローラーでしたが、組合員さんの中には震災後、生協への連絡先が分からなくて困っていた方もいました。年配の方にはできるだけ丁寧に説明したつもりですが、OCRが細かいので(自分の地域も同じです)、どこまで理解していただいたか不安です。担当者、支部のフォローが必要かと思っています。

また、ローラーをしていた中で、年配の方が商品注文もしていないのに請求書が来た、そんな話は聞いていないから止めるという方がいました。見てみると増資の分でした。1時間ほど話しながら謝罪、説明して何とか納めることができました。共同購入分は店と違うように、増資分の請求は1ヵ月後から引き落としにするなどの対応をしてもいいのではと考えました。

いわて生協の方には、仮設住宅に住んでいる方の声を大切にして、加入につなげていただきたいと思っています。

菅原 光春 (共立社) 期間 6月20日～8月5日 支援先 釜石支部

今回は、けせん支部、釜石支部の2支部にお世話になりました。けせん支部では地域ローラーを行い、一軒一軒訪ねて、震災時の話を聞きながらの活動でした。訪問すると、いやな顔もせず迎え入れてくださり、話を聞いてもらえました。

釜石支部では、仮設住宅の訪問です。買い物に行くのに苦労している方や以前生協を利用していた方など、生協に期待している方が多くいました。全仮設住宅を1回は訪問し、今困っている方へ生協の良さをお知らせできるよう取り組みました。

活動で気づいたのは、拡大用のチラシが週末に不足しないよう対応する必要があることです。困っている人がすぐ利用できなければ不親切になってしまいます。また、加入書類、注文書の字が小さく、年配の方から記入しにくいという声もありました。メモなどで提出する方もいますので、面倒がらずに対応することが、困っている方の役に立つことになると思います。

坂内 時雄 (コープにいがた)

期 間 6月6日～7月1日

支援先 久慈支部

前半は、理容室27件、美容室21件、会計(税理士)事務所12件、デイサービス8件、歯科医院1件とその周辺地域約500件、後半は歯科医院2件、周辺地域約600件を訪問しました。結果は加入10件、利用再開3件、共済2件で、苦戦しました。

職場訪問では即日加入にこだわりすぎたこともあります。また職場周辺の駅前、商店街、旧市街地は年配の方が多く会話になるものの、商品提案がかみ合わず修正しきれなかった気がします。「真剣に旦那と相談する」という返答を、断り文句と勘違いした面もありました。訪問件数は目標比75%。同じ地域に4、5回訪問することになり、加入目標に対応した行動量を確保できませんでした。

生協の価格はスーパーに負けていないので、地道に訪問すれば少なくともアポになる可能性があります。ドアは開き、話は聞いてもらえるので、「旦那に相談は当たり前という感覚」を受け止めて、話が上滑りにならないよう、いかに生協の良さを伝えるかだと思います。

地震・津波の被害に遭い、復興に向けてがんばっているいわて生協の役職員に敬意を表します。生協の良さ、組合員さんに喜ばれた声を伝え広めることはいつの時代も大切です。

山本 忠 (コープネット)

期 間 7月4日～8月5日

支援先 久慈支部

初めての地域での戸別訪問、職場訪問は多少言葉につまずきながらでしたが、一生懸命活動しました。80代の女性を訪問した時、2時間かけて身の上話を聞きながら、自分の体験や来訪の目的を話して、ご加入いただいたことが印象に残っています。

仲間づくり活動ではいろいろと工夫しました。久慈市地域包括支援センター「元気の泉」で行われた赤ちゃんの健診時にブースを設けて情報収集をしました。保健センターだよりから現地担当者と交渉、机も椅子も用意していただき、自前でアンケートとプレゼント(うちわとティッシュ)を持参。健診に来た方にスリッパを用意し、「お帰りの際にアンケートとプレゼントがあります」と案内しました。帰り際に2分ぐらいでアンケートをお願いし、その場での加入は難しいので「カタログをお届けします」と言って住所、電話番号、名前を記入していただきました。かなり高い確率で情報を得ることができました。ここは1人で対応しました。

職場訪問でも、その職場の名前を入れてアンケートを作成。15カ所ほどお願いして情報を得ました。回収日と時間を入れて対応したところもあり、回収日に即加入となった方もいます。

最終週は法人対応でした。チラシ、封筒、案内分などをセットして約100部作成し、70カ所ほど訪問しました。4,000円の収入印紙を加入用紙に貼って持参しました。福祉関係施設から訪問後すぐに電話があり内容を聞きたいとの問い合わせが1件ありました。他の福祉施設、私立保育園からも連絡があり、支部長に引継ぎました。法人対応も案内封筒をオリジナルで作し、封筒を見せながら生協の良さを説明できるといいと思います。保育園は学校生協が入っていますが、法人契約はこちらが有利だと思います。

PRもいろいろ知恵を絞って工夫したいものです。今回はポケットティッシュにチラシを挟み、「無料でプレゼント」の文字が見えるよう作成しました。休暇を使つての活動もしました。IBC岩手放送の生中継の場に参加、ポケットティッシュ100個、うちわ404枚を配布して宣伝しました。また温泉地4、5カ所にポスティングチラシを50～100枚置かせてもらいましたが、半分営業しながら楽しみました。

自分から手を上げて震災支援の取り組みに参加しました。ノウハウを実践し、結果を出して、新しい拡大方法をお土産にできたと思います。久慈支部の皆さん、関係者のみなさんには貴重な体験をさせていただき、感謝しています。拡大、利用、供給、訴求、そして共済も。笑顔と元気で日本一になるようがんばりましょう。

辻澤 匡紫 (いばらきコープ) **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 宮古支部

被災地域や仮設住宅を回ると、やはり自転車やバスで買い物に行き、不自由されている方が多くいました。一人でも多くの方に生協の共同購入をお知らせしてお役立ちすることを目標に、毎日を全力で活動しました。一日一日がすごく短く感じられました。

仮設住宅を訪問した際、80代のご夫婦宅で雑談していたところ奥さんが「津波で何もかも流されてねー」と突然声を上げて泣き出され、かける言葉が見つかりませんでした。共同購入を利用させていただくことになり、少しでも役に立ったかと思えます。

コープネットとは宅配システムや伝票類が違うため事務手続きに苦労しましたが、宮古支部ではモチベーションを高めるためにタスクチームに「12:00、15:00、18:00」実績の一斉メールがあります。お互いに競い合う事でがんばれました。

宮古エリアは店舗が多いので生協の知名度は高いのですが、まだまだ共同購入を知らない方がたくさん居るのでさらに組合員拡大を進めていってほしいと思います。私も宮古での経験を生かしてがんばっていきます。「岩手サイコー、宮古サイコー」。

井田 稔 (コープぐんま) **期 間** 6月6日～7月1日 **支援先** 宮古支部

当初、拡大タスクの方々と同行しました。買い物も大変な地域で、仮設住宅でコース外の方も多く、生協宅配を即再開してくれるケースが多かったように思います。

中盤は宮古市内の生協店舗そばの仮設住宅や高層住宅を戸別訪問しました。買い物に不便がなく、生協店舗も近いため大変苦戦しました。商品メリット(店舗と宅配の違い、優位性)をうまく話せないのが問題だと感じました。最終週は山田町の仮設住宅と被災地域を戸別訪問。車で買い物に行ける方にも配達メリットからの会話で営業し易かったです。

生協店舗そばの営業活動は、支援者には特に厳しく、事前に宅配商品の優位性(金額、特徴)のレクチャーを受けられれば良かったと思います。また面談率を上げるためには、夕方もしくは土曜日の営業活動が有効だと思いました。

宮古市内は生協店舗が多くあり、組合員さんの組織率、地域の方々の認知度が高いようです。また、セリオ、灯油、牛乳配達など幅広く事業を展開されています。いわて生協は、業態間の連携を強化し、より多くの組合員にそれらの情報を伝えていけば、さらに組合員さんの生活に貢献していけると思います。

田中 寛明 (コープぐんま) **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 宮古支部

いわて生協には、利用拡大≠加入ではなく、利用して生協商品のファンになっていただくことが目的という営業本来のあるべき姿を改めて感じました。

仮設住宅や被災地のお宅では買い物に困っている方が多く、訪問数の増加がコープのお役立ちにつながりました。

また宮古支部のタスクメンバーの協力体制に感心しました。毎日タスク全員で手分けをし、朝の積み込みの手伝いやステーションの荷物の準備をしています。それぞれが1日の行動の組み立てを行い、時間を大切にし、高い目標を追っていく姿勢は、私にとって大きな刺激になりました。

活動の中で気づいたのは、用紙を入れる通い袋をドアノブにも下げられる形に変えた方がいいという点です。また、私は戸別訪問時の自力アポにもこだわって活動しましたが、加入は28人中7人。相手の雰囲気を感じ取る観察・努力が足りなかったかも知れません。

優秀な宮古支部の皆さんになかなかついていけなくて悔しかったです。大変でしたが、楽しく貴重な日々でした。またの機会に活躍できるよう、ぐんまで力をつけていきたいです。

生協は全国につながっていることを意識し、どれだけ多くのお役立ちができるか、皆でチャレンジ

していきましょう。

片桐 洋平 (共立社) **期 間** 6月13日～8月5日 **支援先** 宮古支部

宮古支部の皆さんとともにとても良い支部の雰囲気の中で仕事をさせていただきました。根本的な部分で、本来の共同購入、地域の皆さんに役立つために、ということが改めて理解できたと思います。

宮古支部に関しては、他県にも十分通用するパート職員の方が多くいるので、評価を形にし、正規登用をもっと考えてもいいのではないかと生意気ながら日々感じていました。加入用紙については記入欄が多くてかなり時間が取られるため、短縮する方法を考えると良いと思いました。また、利用登録商品とウィーク商品は、岩手独自のものが多く、県産商品を強化して地域に密着していると思いました。

支援で回ってみると、買い物をする手段がなく本当に困っている方が多くいたので「お役立ち」について再認識しました。

中澤 潔 (コープながの) **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 県南支部

加入用紙と口座登録用紙が分かれているので、ハンコが見当たらないという場合に後日対応がしやすいと思いました。反面、個配申込書の家族（お知り合い）記入欄や勤め先、年収を記入するスタイルに対応するのが難しかったです。年収を聞くのは緊張しますが、初対面の方でもそれを聞いてくるタスクの皆さんは素晴らしかったです。ただ、年収等の記入に時間がかかり、サンプル、増資の話をしにくくなる面があります。また支援先が決まった時点で、加入用紙や記入例などを先にいただけると実践的で良かったと思います。

いわて生協は、数字を大事にすると同時に組合員さんにどうお役に立つかということを常に意識して仕事をしている支部だと感じています。私自身の仕事の進め方、考え方を大きく反省し勉強しました。震災で大変な状況ではありますが、組合員さんのためになる生協、加入して良かったと思える生協のスタンスを大切にしてください。そして今後とも「東北の生協の雄」でありますように。

河合 耕太郎 (大阪いずみ市民生協) **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 盛岡西支部

約5週間の間に2つの支部での応援となりましたが、それぞれの地域での状況の違いを知ることができました。盛岡では震災の影響は比較的少ないようでしたが、いわて生協全体の底上げのために皆さんがんばって拡大活動をしていました。宮古では被害が大きく、地域の方々、特に仮設住宅にお住まいの方々は買い物に不便を感じています。そのため利用を希望する方も多く、皆さんの生活にお役立ちできる実感が持てました。

課題は、2つの支部間でルールが異なっていることだと思いました。地域の事情があつてのことと思いますが、統一した方が仕事がやり易いのではないのでしょうか。

震災の影響で利用者が減り、その後の皆さんのがんばりで回復ペースに向っているとお聞きしました。加入者が利用を続けるよう、担当者や組合員さんのつながりを大切にしていきたいと思いません。

大口 忠史 (コープあいち) **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 盛岡東支部

盛岡東支部では拡大タスク4名が一丸となって目標を達成しようがんばっている姿が印象に残りました。メールで1日3回の数値報告と、週の目標と活動の流れがきちんと組み立てられていて、自分も緊張感・集中力・連帯感が増していました。1つ新しい班ができたことが嬉しかったです。自分は班づくりに力を入れているので、訪問した時に班でやりたいという方がいて、何とか隣3軒で組織できました。

戸別訪問でアポをとる時に、土曜日なら家にいるという方が3人ほどいました。コープあいちでも土曜希望者がいるので、月曜日～土曜日のうち5日出勤になっています。分散するとマネジメント上難しいと思いますが、うまく対応できるといいと思いました。

釜石支部では仮設住宅を訪問しましたが、九死に一生を得たという方が本当に多くて言葉も出ませんでした。そんな中でも皆さん前向きにがんばろうと言っていて、自分の甘さを感じました。釜石市、大槌町の訪問は十分ではなかったの、いわて生協で今後沿岸エリアのローラー訪問を計画できたらいいと思います。仮設住宅の方以外でも買い物が不便という方がたくさんいました。

震災からの復興をとげ、その事例を発信してほしいと思います。生協は一つ、今後とも連帯していきましょう。

楠本 宗大（大阪いずみ市民生協） **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 盛岡南支部

実際の被害が見えていなかった内陸部と被害の大きかった沿岸部の両方で活動させていただき、大変貴重な経験となりました。生協が地域の方々本当に役立っていることを実感できました。

今後復興して他の商業施設が回復した時にも、今回震災後に加入再開していただいた組合員さんの食卓に生協商品が並んでいるよう、フォローを大切にしていきたいと思います。

私は大阪に戻ってもこの経験を忘れずにがんばります。

みやぎ生協

庄司 理沙（共立社） **期 間** 6月13日～8月5日 **支援先** 気仙沼支部

気仙沼支部に行ってみず津波の被災地を見に行きました。車で走り始めて数分、今まで見たことのある風景とは全く違う世界が広がりました。想像をはるかに超えていました。印象に残ったのは、瓦礫が広がっている道を普通に歩いている小学生の姿です。これが今の状況なんだと思いました。

拡大業務は主に仮設住宅の訪問です。やはり、津波で妻を亡くした、夫を亡くしたという方がいて、何と言ったらいいいのかわかりませんでした。私が戸惑ってしまうと、「でも、くよくよばかりもしてられないから」「話したら少し楽になった」などの言葉が出ます。本当に強くて、皆さんが前に進んでいることに私も励まされました。

今回の支援活動で、みやぎ生協の知名度の高さに驚きました。加入手続きに行き「生協さん、ありがとうね」と言われる度に、私でも支援のお役に立てたかなと思えました。相手の話をしっかり聞き、その方の状況、家族構成に合った生協の利用の仕方、メリットをお話しするという事も学びました。この2カ月の経験がだんだん自信へと変わっていくよう、これから山形でがんばりたいと思います。

斎藤 千佳子（共立社） **期 間** 6月13日～8月5日 **支援先** 気仙沼支部

始めは津波被害の大きさに驚き、ショックの連続でした。でも気仙沼の皆さんの方がどんなにか悲しい思いをしたらろうと考え直し、くよくよしないで自分のできることを精一杯しよう、少しでも役に立ちたいと思うようになりました。

家を新築している最中に震災に遭い、自宅避難という方がいて、食料をもらいに遠くの避難所まで自転車で通っていました。生協の宅配に「本当に助かります」と言ってくださり、生協の素晴らしさを実感しました。また、仮設住宅を回った時には「前に担当してもらっていた〇〇さんは元気？」と聞かれることが多く、メンバーさんとの距離の近さ、信頼の高さがわかりました。

活動を通じて、拡大専任の佐藤清美さんから多くのことを学びました。相手の話を聞きながらもきちんと自分のペースで話を進めること、迷っている方に対しては遠慮がちに勧めるのではなく強く背中を押すことも必要、配達担当者と密に情報交換をすることです。気仙沼支部の皆さんには、固い結

東、お互いを信頼し助け合う関係、大変な状況でも文句を言わずに日々の業務をこなす姿があり、うらやましく思いました。自分自身の成長につながる貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

三田村 弦郎 (コープしが) 期間 7月4日～8月5日 支援先 柴田支部

滋賀ではインターフォン越しに「結構です」という返事から始まるのが基本トークです。しかし宮城ではインターフォン越しに断られたのは1件のみ。だいたいのお宅で玄関を開けてくれ「ご苦労様です」と話を聞いてくれました。ほとんどが個人(店舗)組合員さんというみやぎ生協への信頼の厚さを感じました。

山元町でのボランティア活動に参加した時のこと。私が担当していた仮設住宅に暮らす方がボランティアに来ていました。自分の家は全壊なのに、津波で大規模半壊となった家で仕上げの拭き掃除を自分の家のように一生懸命作業されていた姿に感銘を受けました。

前半は内陸部をローラー訪問しました。街の生活は普段と変わりませんが、古い建物が並ぶ「蔵の風景」は地震での損壊が激しく、立ち入り禁止の札が目立っていました。支援期間中に唯一新規加入してくださったのは福島から避難されている方でした。

後半は山元町の被災地や仮設住宅のローラー訪問です。店舗利用の組合員さんが多く、生協を知らない方はいませんでした。商品サンプルを見て、「避難所でいただきました、ありがとう」「遠くから支援に来てくださってありがとう」と、励ましの言葉をいただきました。津波で息子さんを亡くされ、一人暮らしになった80歳の女性からは「今日は話を聞いてもらってすっきりしました。復興した姿を見にまた来てください」と言われました。

仮設住宅建設と引越しが同時進行という慌しい地域のローラー訪問では、「待っていたのよ」とすぐに手続きしてくださる組合員さん、明日滋賀へ戻りますと言うと「だったら早くしてあげないと」と時間を割いてくださる組合員さんがいました。本当にお世話になりました。

実績が上げられなかった日も、辛い話を聞いた日もセンターに戻ってくると、みんなの笑顔と「お帰りなさい」の声に勇気づけられ、元気が出ました。柴田支部の皆さん、ありがとうございました。

藤原 靖之 (コープしまね) 期間 7月8日～8月5日 支援先 柴田支部

最初は被災された方にどう声をかけたらいいのか、とても不安でした。ところが、家が流され、身内の方が亡くなったなど辛い経験をされたにも関わらず、皆さんが真剣に話をしてくださいます。元氣と笑顔がありました。お話を聞いて胸が熱くなり、感動をいただきました。

活動に歩いて、みやぎ生協に対するメンバーさんからの信頼、感謝が大きいことに驚きました。人と人とのつながりがいかに大切かが分かりました。自生協に戻ったら、相手に笑顔がたくさん出て楽しく話が進める対話、必ず目標を達成する行動でがんばりたいと思います。今回の経験で「人間の生きる力」を教えてくださいました。

杉保 文隆 (ユークープ) 期間 7月4日～8月5日 支援先 柴田支部

被災された方から、「支援物資やたすけあい共済の給付金をもらってありがたかった」という言葉をたくさんいただきました。しかし、仮設住宅を訪問した際、特に高齢の方は2年後仮設住宅を出てからの生活を心配している方が多くいました。その方に対して生協としてできることを考えていたかったです。

活動する中では、相手の話をしっかり聞き、本当は何に困っているのかを聞き出すこと、普段からコミュニケーションをとること、人と人とのつながりの重要性を学びました。常に相手の立場に立った視点で自分がどのようにお役立ちできるかを考え、実践していきたいです。

みやぎ生協については、地域の方にこれだけ愛されている生協は他にないと思います。いままで取り組んできた活動に誇りを持ってこれからもがんばってください。

藤本 格意（ユーコープ） **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 柴田支部

震災後3～4カ月経過しており、被災された方も少し落ち着いてきているように感じました。被災についてはこちらから触れず、相手が言えれば対応することにしていましたが、こちらが発する言葉には神経を使いました。

拡大業務を行っていて、宮城県は優しい方が多いと感じました。玄関先で「みやぎ生協です」と言うだけでドアを開けてくれるというのは、神奈川ではまず有り得ないことです。職員、パートさんの日頃の取り組みが組合員さんや地域の方々に認められている証でしょう。震災直後の食料などの支援に多くの方から感謝されましたので、みやぎ生協の対応は素晴らしいと思いました。そうしたことも含め、万一の災害時の対応について参考にしたいと思います。

橋本 晃（さいたまコープ） **期 間** 6月6日～7月1日 **支援先** 石巻支部

大震災から生き残った強さなのか、「みやぎ生協の支援で来ています」と言うと、会う人が皆「遠いところからありがとう」と感謝してくださいます。一方、訪問先で男性に「奥様いらっしゃいますか」と声をかけたところ、津波から逃れる途中で流され亡くなったとのことで、嗚咽されました。私はどうすることもできず、ただ一緒に泣くだけでした。

そんな中で私ができることは利用組合員さんを増やすこと。組合員さんにとってもみやぎ生協にとってもプラスになることを常に意識しながら緊張感を持って拡大活動をしました。あつという間の1カ月間でした。

今回は自分の人生を変えるような体験をさせていただきました。復興は長期戦になるとの覚悟が必要ですが、私たちも応援しています。生まれ変わった石巻にもう一度伺いたいと思います。

根元 貴広（さいたまコープ） **期 間** 6月6日～7月1日 **支援先** 石巻支部

被災地域の生協を支援するために全国の生協職員が集まり、気持ちを一つにして苦楽をともにする。全国の生協の底力や横のつながりにも今一度驚きました。それが地域の方々の新しいつながりを生み、復興のきっかけになっています。

埼玉にいる時より、一層感情移入する場面が多くあり、相手の立場に立って考えること、思いを伝えることの大切さを再認識しました。拡大活動の中で嬉しかったのは、避難所で新班をつくれたこと。個人宅配を希望される方もいますが、班利用だとコミュニケーションをとる場が増えるからです。人と人とのつながりが復興の礎になると信じていますので、そのきっかけに自分が携わったことに喜びを感じました。結果的に班づくりの方が良かったようで、さらにお友達を誘っていただき4人の班となりました。

この1カ月間で自分自身がどう変わったか、どう埼玉で生かすかが今後の課題です。これから先いろいんな壁にぶつかるでしょうが、全力で取り組んでいこうと思います。

愛甲 英雄（さいたまコープ） **期 間** 7月4日～8月6日 **支援先** 石巻支部

営業ということ言えば仕事の内容は埼玉と変わりません。が、場所は被災地です。自衛隊や警察、ボランティアなどが全国から来ていて、全員で復興に向っている感じがしました。

仮設住宅を中心に営業していましたが、東北の人は被災されていても弱音を吐くことが少なかったです。埼玉から支援に来ていると言うと、ありがとうと返してくれる人が多かったです。初めて加入

していただいた方ですが、中へ案内されると、そこには5枚の遺影がありました。おじいちゃん、おばあちゃん、小学生ぐらいの子ども3人です。ご夫婦は仕事に出かけていて無事だったそうです。避難所では物資が届かず大変だった、風呂もない、プライバシーもないといろいろお話をされるうちに涙を流されました。私もそれを聞いて、目が真っ赤になったまま手続きをしました。

訪問活動では、まず話すのではなく聞くことから始めました。会話の中で不安や不満をお聞きすると、困っていることを言うてくださるので、それに対して提案し、お役に立てるようお話しします。本当に相手の立場に立って聞き、こちらの話をするのです。

みやぎ生協の皆さんには温かく迎えていただきました。長いようで短い5週間でした。支援は一度で終わらせず、また行きたいと思います。

鈴木 一弘 (さいたまコープ) 期間 7月4日～8月5日 支援先 石巻支部

最初は被災者の方に営業することに抵抗がありましたが、活動していくうち、ただ加入してもらうのではなく、相手のお話を聞いて提案することだと感じました。

訪問先の1軒では、震災当日のことを思い出し、泣いてしまったお年寄りの女性がいました。寂しそうに「昼食だけでも食べて行って」と言われ、一緒に冷やし中華を食べたことが印象に残っています。

仮設住宅を中心に営業しましたが、支部近くでのステーション案内、車を運転しながらの「こんにちは拡大」で多くの人にご加入いただきました。今回の活動で、相手の話を聞くこと、相手との共通点を見つけること、組合員さんの期待に応えることの大切さを学びました。話をよく聞いていかに良い提案をするか。食品だけでなく、暮らし全般でお役に立てる提案型の拡大営業を築いていきたいと思っています。

石巻支部の皆さんはとても元気で温かく優しい方々でした。また一緒に働きたいです。

松崎 真也 (大阪パルコープ) 期間 7月4日～8月5日 支援先 石巻支部

震災が起こった時に、多くの方が何か自分にできることはないか、何か役に立てることはないかと思ったはずですが。今回の支援活動はまさに生協を通じて被災された方の役に立つための活動内容だったと思います。始めは大丈夫、不便はないと言っていた方も、じっくりお話していくうちに生協の配達の仕事、商品などを知っていただく利用に至るケースが多く、これはどのような方に対しても同じことが言えると思いました。

仮設住宅訪問の中で、奥さんと息子さんを亡くされ、一人暮らしとなった年配の男性がいました。「今は何も考えられない、私だけ生かされたのだから、しっかり食べなければならぬとは思っている…」と言い、その後も私を見かけると「クーラーを効かせるから家で昼ごはん食べていくか」と声をかけていただきました。もっと時間をかけてゆっくりとお話をすればよかったかと少し後悔しています。

支援活動について、行く前に5週間は長いと思ったのですが、実際に活動してみるとあっという間でした。最初の2週間は実務作業に追われて何をしているのか分からない感じでした。拡大を集中して行っていくために、最低でもこのぐらいの活動期間が必要だと思いました。

石巻支部では、買い物に困っている方の役に立つ、そして支部を復興するという思いを拡大メンバーも配達担当者も事務方も全員が持って団結しています。その一員として迎え入れていただき、一緒に仕事をさせていただいたことを誇りに思い、感謝しています。

毛塚 和仁 (コープとうきょう) 期間 6月6日～8月5日 支援先 東支部

私は3月21日～26日、現場の復旧作業にみやぎ生協に行っていましたので、今回は使命感を強く持って望みました。

2ヵ月間活動して、やはり「人」が重要だと改めて感じました。組織を良くするのも悪くするのも人、震災からの復興を早めるのも遅くするのも人です。日頃、人の育成に携わる仕事をしていますが、今回の支援で常々私が言っている「相手の立場に立つ」ということ、それを根本においた「提案型拡大」が間違っていなかったと確信できました。今後どのような環境下でも、この経験を生かしていこうと思います。

東支部の皆さんは本当に優しい方ばかりで、不安なく仕事ことができました。私にとって皆さんは家族のような存在です。ありがとうございました。

代田 登 (コープながの) **期 間** 6月8日～7月1日 **支援先** 東支部

多賀城市の沿岸部では1.3mぐらいの高さまで津波が襲ったとのこと。その痕跡が至る所の家々に残っています。ある組合員さんのお宅では、忘れないようにと庭のフェンスに津波がきた位置にテープを貼っていました。2階に住まいを設ける方、家を解体して建て直す方、瓦礫の片付けもままならない方、空き家状態の方など、被災者の状況は様々です。道路、高架橋の下、駐車場、グラウンドの一角にはまだ被災車両、瓦礫がそのまま積み上げられています。道路も寸断され、信号の電気は切れたままで警察官が誘導している光景がまだあります。人生観を変えと言っても過言ではない現実がありました。

そのような中での活動で、加入実績は8名でした。仙台市の高砂店から150mほどの距離にある仮設住宅の訪問では断られることが多かったです。理由は、今のところ不便はない、仕事をしており買いたい時に買いに行く、店舗が近い、など。訪問日に即決できるクロージングの一言が弱かったのでしょうか。東支部に帰ってから岡田拡大課長と話してみると、「まずやってみっぺ」を話の中に何度も入れてその気になっていただく対話術が足りないのではないかとの問題提起もいただきました。

東支部の皆さんは震災に負けず、いつでも一生懸命に拡大行動、支部運営を行っています。その姿に刺激を受け、大変意義ある体験をさせていただきました。長野の地で一緒に働く仲間今回学んだことを伝え、皆さんの早期の復興への後押しに変えていきたいと思います。いつかまた会える日を楽しみにしています。

大川 弘樹 (ちばコープ) **期 間** 7月6日～8月5日 **支援先** 東支部

被災地をこの目で見て、震災を経験された方々とお話することができ、本当に貴重な経験をさせていただきました。

みやぎ生協では無料期間がなく、最初は戸惑いでしたが、対応するうちにそれよりも自分自身のお勧めファイルを作成して地域の方に伝えていくことの重要性を学びました。訪問のために地図を用意していただき、拡大のとり方、伝票の使い方などいねいに教えてくださって助かりました。

訪問先で「震災直後に何もなかった時、生協の人が物資を持ってきてくれたことは忘れません。本当にありがとうございました」と感謝の言葉をいただいたり、「こうやって話ができる状況が嬉しいのよ」という声も印象に残っています。

みやぎ生協の皆さんは何も分からない私を温かく迎えてくださいました。千葉に帰って、他生協の方が見えたり新人が入ったら、同じように迎え、気にかけてあげたいと思います。東支部の方々からいただいた「メッセージネクタイ」は一生の宝物です。

田辺 衛 (ちばコープ) **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 東支部

被災されて転居されたばかりの方に配達を利用させていただくことになり、「また生協をこんなに身近に利用できると思っていなかった」と感謝していただいたことが忘れられません。年配の方を訪問した際、車に乗っていた時津波がきてもう少しで流されるところだった、家族の安否が確認できるま

で大変だったというお話を聞き、もし自分だったらとても耐え難いだろうと思いました。

今回の活動で、班拡大の大切さを学びました。訪問時の下準備、数字、目標をチーム一丸となって達成しようとする意識を持ち、センター全員で事例を広めていく活動でした。

どの地域でも組合員さんに対する思い、向いている方向は同じだと実感しました。私たちが温かく迎えてくれ、いろいろ教えてくださってありがとうございました。千葉に帰って、この1カ月の経験を生かしてがんばります。

村野 政光 (大阪パルコープ) 期間 7月4日～8月6日 支援先 東支部

数値のプレッシャーがかなりありましたが、他のメンバーから仕事に対する姿勢など学ぶ点が多く、学び合い、競い合う集団だったので、やりがいもあり楽しかったです。

仙台市内を中心に活動しましたが、多くの被災者の方が「皆、そうだからね」と、次の生活に切り替えていこうとしていました。ただ、震災でご主人を亡くし、生きていく張り合いがないと奥さんに泣かれた時は言葉が出ませんでした。

ローラー訪問では、加入しない方でもお母様が被災して買い物に不自由しているからと紹介してくださったり、娘さんの家に避難している組合員さんが生協のカタログを見るのが楽しみと言ってくださったりしました。訪問先では多くの方が玄関先まで出てきてくれ、マンションの管理人さんにも「生協さん、大変だね」とお声をかけていただき、みやぎ生協が地域に根ざし安心感を与える存在になっていることを知りました。

商品案内も加入の実務も違い、メンバーは他生協からの応援部隊の集まりという活動でしたが、かけがえのない良い経験をさせていただきました。

永瀬 勇介 (ちばコープ) 期間 6月6日～7月1日 支援先 南支部

今回の活動先は直接津波被害を受けた地区ではありませんでしたが、公園には仮設住宅があり、被災された何人かの方とお話しました。

相手から生協の話をしてくれたり、感謝の言葉を言われたりしたので、生協が震災後すぐに対応したことが分かりました。被災者で空いた社宅に入居されていた方に加入していただきました。元々組合員だったのですが、家を流され普段の生活ができないと困っていたといいます。社宅で生協の商品が届くことを大変喜んでくださいました。「食べ物だけでも前の生活に戻れるわ、ありがとう」という言葉が嬉しかったです。

1カ月間温かく受け入れていただき、ありがとうございました。職員・パートさんも少なからず被災されているのに、明るく元気よく働く姿が印象に残っています。自分もこの間に学んだこと、感じたことを今後の仕事に生かしていきたいと思います。

川村 英正 (ちばコープ) 期間 6月6日～7月1日 支援先 南支部

被災して石巻市から引っ越してきた方の加入受付をしました。この方は組合員ではなかったのですが、避難所で最初に配られた食べ物が生協のモーニングクロワッサンだったので、感謝の気持ちがわき、生活が落ち着いたら生協を利用しよう決めてくださったとのこと。受付をしている間に何度も「ありがとうございました」との言葉をいただき、心から嬉しい気持ちになりました。

拡大活動では、営業の手法や配達システムは生協ごとにより違いましたが、組合員拡大の重要性は変わらないと思いました。新規の組合員さんの利用定着のためには、営業担当者だけでなく、配達担当者と一緒に商品のお勧めなどを積極的にしていくことが重要と感じました。支援活動については、現地の支部に行くまで具体的な活動内容を知らされていませんでした。事前にどんな地域を回り、どんな営業活動をするのか予備知識があれば、1週目からもう少し動き易かったと思います。

これからも大変な日々が続くと思いますが、皆さん力を合わせてがんばってください。お手伝いできることがあればまた参加します。

吉田 益男（大阪いずみ市民生協） 期 間 7月4日～8月5日 支援先 南支部

行く前は言葉や文化の違いが不安でしたが、相手をそのまま受け入れ、自分は素直に関西から来ていることを言って対応していきました。

活動の中では、伝票類の文字が小さく、高齢の方にとってもう少し見やすく分かりやすい様式にする方がいいのではと感じました。また職員の皆さんは大変忙しく、全くわからないことを聞くのがはばかれる雰囲気もありました。

今回の経験で、話すフレーズの1つ1つがマッチしているのか常に検討することが必要と感じました。言葉の大切さを常に頭に置いて活動していきたいと思います。

小井 一央（大阪いずみ市民生協） 期 間 7月4日～8月5日 支援先 南支部

私が伺った被災者の方は過去を振り返ることを避けているようで、震災のことには極力触れずにお話することしかできませんでした。

支援活動を通じ、拡大の手法（特に学校訪問や職場へのアポ取り・訪問）、対象者へのアプローチの仕方（トーク内容）について、自分の知らない方法をたくさん学びました。職場へのアプローチは真似をしてすぐに活動に取り入れようと思います。どちらが支援なのか分からないようなものでしたが、同じ生協に勤める者として、これからも一緒にがんばりましょう。

新海 雅彦（大阪いずみ市民生協） 期 間 7月4日～8月5日 支援先 南支部

被災者の生の声を聞くことができました。今回の体験で、生協の社会的役割とは何かを改めて考え、その大切さを実感しました。

実務面では、仲間づくりの専任メンバーが配送号車の営業に責任を持つやり方に感心しました。いずみでは班担当者と個配が別々に配送しており、効率をあげるため今後の検討課題だと思います。また利用登録や有料サンプル、即利用の取り組みも、供給を意識的に積み上げていく点で大いに参考になりました。

竹田 貢（大阪いずみ市民生協） 期 間 7月4日～8月5日 支援先 南支部

仮設住宅の訪問では、生協がいつもそばに寄り添っていて、いつでもご利用いただけるようにしている空気を感じました。

対象者の暮らしに寄り添い、お役立ちの視点で営業できるよう、姿勢、トークについて発信していきたいと思います。また手法では、担当アポ方式に加え「自力アポ」という概念で効率の良いオルグを実践している点を取り入れたいです。

復興に向けて、支部職員が一丸となって奮闘されている姿は本当にカッコいいです。

辻 康浩（大阪いずみ市民生協） 期 間 7月4日～8月5日 支援先 南支部

ローラーを続けていくうちに、言葉のニュアンスの違い、また店舗が多くあることなど、大阪とは違う独自性があると感じました。事務作業やシステムも大きく違っていたので、結局最後まで理解するには至らず、対象者にお話するにも戸惑いました。また、特に年配の方の言葉がよく理解できないことがあり、こちらの話が十分に伝わっていないように思えました。

そんな中でも、ローラー活動のアポの取り方、TEL活動でのアポの取り方、切り返しトークの仕方など学ぶことが多くありました。自生協にも活かせるので実践してみようと考えています。

組合員さんは生協のいい点を活かして利用しています。生協に対する組合員さんの思いは全国共通でしょう。大阪に戻ってさらに生協を広めていきたいと思います。

斉藤 哲也（コープかがわ） **期 間** 8月1日～8月5日 **支援先** 迫支部

人の「想い」は、生きていくのにこの上ない「力」となるものだとことを学びました。目標を達成するという想いをしっかり持って、そのためにどう行動するか。全員がその想いを共有できるようにすることが重要だと思いました。

訪問先でのお話はほとんど地震のことになり、震災後の生協の活動に対して感謝の言葉とお叱りの言葉をいただきました。一つの言動が相手に与える印象を大きく変えてしまうものと感じました。自己満足の活動にならないよう、常に相手の立場に立った活動を心がけたいと思います。

みやぎ生協の皆さんは震災以来オーバーワークが続いていると思います。まずは自分と家族のことを考え、その上でのがんばりにしてください。

石橋 恭一（コープかがわ） **期 間** 8月1日～8月5日 **支援先** 迫支部

システムや商品についてよく知らなかったのが不安でしたが、1日かけて説明していただき、不安は解消しました。

仮設住宅のオルグの時にカレンダーを届けていましたが、お年寄りの女性に「何もかも流されて困っていたから、きれいな花のカレンダーは嬉しい」と大変喜んでいただきました。なぜカレンダーなのかと思っていましたが、被災された方の立場で考えていると分かりました。また、ある組合員さんには震災後すぐにコープの店舗で酒を売ってくれてよかったと感謝されました。

活動の中で、加入時の説明の大切さ、商品の使い方を伝えることの大切さを学びました。センターで共有化していきたいです。

コープふくしま

金井 克憲（コープいしかわ） **期 間** 7月20日～8月5日 **支援先** いわき支部

実際に現地に赴くまでは、放射能や方言、食文化の違いなどが心配でした。しかし言葉や文化にさほど違いはなく、また復旧も進み、日常生活に戻っていて、安心して活動できました。

消費者は、野菜を始め食品の産地に非常に敏感になっていて福島県産を敬遠する傾向がありました。子育て応援で牛乳無料配達の特典もありましたが、福島産と分かると「いらない」と言われたこともあります。一方、自主避難の組合員さんにお会いして利用再開をお勧めした時に「ありがとう」と感謝され、こちらが感動しました。

現地で体験をし、震災はまだまだ終わっていないと強く感じましたので、この体験を所属する生協に帰って多くの職員に伝え、物心ともにこれからも応援を続けていきます。

竹内 伸悟（コープいしかわ） **期 間** 7月4日～7月20日 **支援先** いわき支部

比較的被害の小さい地域だったためか、普段と変わらずに行動、話ことができました。消費者の方々は思っていたよりもお元気で普通に接していただけました。ただやはり原発事故の影響は大きく、ご加入いただいた方からは「放射能が気になるので野菜など東北以外のものがほしい」との声を多く聞きました。

活動時には、レンタカーを1人1台使い、宿泊はシングルで、自分のペースで行動できたのでやりやすかったです。また何か支援できることを見つけて参加したいと思います。皆でがんばりましょう。

南 恵治 (コープいしかわ) **期間** 7月4日～8月5日 **支援先** いわき支部

いわき市周辺は、海岸沿いは津波の被害が大きく、内陸部は原発事故での風評被害とライフライン復旧の遅れ、燃料・食料不足などで日常生活が成り立たず、特に若い世代が他県に避難している状況が続いています。

いわき支部は、震災発生から1週間支部を閉鎖し、共同購入組合員への安否確認の電話連絡を開始(福島の本部から)、翌週からは冷凍食品などを被災者に配送開始、3月28日から共同購入を再開しました。現地では余震(私が滞在した1カ月間で震度5が2回)や原発事故被害が継続、苦しい生活が続いています。

海岸部の広野町で津波により住宅が全壊し、6月からいわき市に避難された方は夫婦と子ども3人の家族で、一軒家の借家住まいです。広野町では近所の方が生協を利用しているのを見ていて興味があったとのこと。商品説明の中で弁当商材をお勧めしたところ、ご加入いただきました。「いろいろ大変でしたね」と声をかけたところ「家族全員が無事で本当に良かった」と言い、本当に前向きだと感じました。

今回の支援では、震災直後のできごとや被災地の現状を支部のスタッフや組合員さん、そして地域で暮らす人から直接聞き、また自分の目で確かめることの大切さを学びました。これらを石川県に持ち帰り、他の職員や組合員さんにも伝えていきたいと思えます。

浦崎 康志 (コープおきなわ) **期間** 7月4日～8月5日 **支援先** いわき支部

支援活動をして、対象者との向き合い方、次週への通過目標を持って取り組むこと、地域を知っているのと知らないのでは差がでること、同じ生協ですがパルシステムという競合相手がある中での営業活動などについて、多くのことを学びました。

これらを自分の生協に持ち帰り、「途中経過目標を設ける」「人事異動があれば前任者が一緒に訪問地域を案内し行動する」「研修等で来訪する方には朝礼での紹介に加え、できる限り交流の場を設定する」などしたいと思えます。

幸地 伸修 (コープおきなわ) **期間** 7月4日～8月5日 **支援先** いわき支部

支援の訪問先で、ご主人から農産の不良品が続けて届いたことにお怒りの言葉がありました。沖縄から来て東北の言葉が分からなのではという不安があったのですが、何とか理解できました。言葉の心配をせずに、いつもどおり相手に関心を寄せるという姿勢で変わりなく接すれば大丈夫でした。

支援活動では、一人でする仕事は辛いのでつながって関心を持ち合うチームをつくるのが一番だということ、利用人数を第一課題にいくつかのパターンの予測を支部長が提示して活動していること、経費削減の強い意識を持つことを学びました。

沖縄では、自分がお会いした方々の現状を伝え、学んだことを仕事に生かしたいと思えます。いわき支部の「やりきる」強さを自分も身につけ、加入登録に目標を持って活動します。営業担当者の利用金額、点数など定期的に一覧にして確認をし、その上で各営業グループが担当者とは有機的につながるよう手助けしていきます。

コープふくしまの方の仕事ぶりに触れ、訪問先の方に励まされ、本当にありがたかった5週間でした。今回の縁を大切に、沖縄で精一杯がんばります。

波津久 周 (コープおおいた) **期間** 6月6日～7月1日 **支援先** 南支部

今回の支援活動を通じて日本全国生協の熱いハートのメンバーと交流できたこと、特に水光社、ララコープの3人とは同宿で、苦しい時も一緒に行動できて励みになりました。またコープふくしまの方とは、まさに厳しい状況下で強い気持ちを持って交流できました。そして何より、この時期に福島

に住む方々と交流できたこと、今は本当に嬉しい思いでいっぱいです。

私がコープおおいたで仲間づくり業務を行いながら考えるのは、「仲間づくりは確かに担当者の力が大きく左右する。しかしもっと大きいのはセンター（支部）内の連携、さらにその生協の総合力が結果の数字となって表れる」ということです。

コープふくしまでの仲間づくり活動は、担当者の力量に期待する度合いが強すぎる感を受けました。担当者の心構えとしては当然ですが…。センター内の連携をもっと深めて、成約を目指していただければと思います。成約につながらなくても、良い事例、悪い事例をもっと皆で報告し、組合員さんが今どんなことを考えているのか、どんなことに良さを感じているのか、不満はないか、など皆で共有し合う場であってほしい。そうすると支援者も組織の中に入っていきやすいと思いました。

厳しい現実の中で数字に目がいくのですが、この時だからこそ、センター全体での交流を持ち、連携して進んでいくことが大事だと感じました。

最初仙台でオリエンテーションがあった時、コープふくしまの児島常務が「今回の支援活動を自己の成長の場としてください」と話されましたが、私もその気持ちで取り組みました。支援にお伺いしながら多くのことを学びました。ありがとうございます。今こそ、協力の力を存分に発揮してさらなる信用、信頼を勝ち取ってください。

田中 徹也（コープおおいた） **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 南支部

久し振りの仲間づくり活動に自分をどう戻していくか、システムの違いに対応できるか不安でしたが、チーフの和田さんとの同行や木村さんとアポ活動をする中で不安はなくなり、地区担当者との活動で自分の気持ちにムチが入りました。

生協の基盤はやはり仲間づくりだと再確認することができました。生協を利用していただくことは被災されている方もいない方も関係なく、対象者の生活にいかに役立つか、そのために強い意志が必要だと思いました。

そしてどんな大変な状況の中でも数字を追いつけていくことの大切さを多くのメンバーに伝え、コープおおいたも福島の方々に笑われないよう結果を残していきたいです。コープふくしまの方々の力強さに感動しました。この先も大変だと思いますが、頑張ってください。

網中 和明（水光社） **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 南支部

5週間ローラーでの仲間づくりでしたが、自分を見つめ直すいい経験をさせていただきました。地域の方々には貴重なお話を聞かせていただきました。「震災後どの店も閉まっていたのに生協さんだけは外で販売してくれたのよ」と感謝してくださる方がいました。また、ご加入くださった方から翌日ご紹介をいただいたことは大変励みになりました。

南支部の方々、これからもご苦労が続くと思いますが遠くから応援しています。「一緒にがんばっぺ！」の色紙、ありがとうございました。熊本からも「一緒にがんばるばい！」。

市原 宏則（エフコープ） **期 間** 7月3日～8月6日 **支援先** 北支部

仲間づくりが生協の基盤に欠かせないものであることを再認識した日々でした。大変さを実感しましたが、勉強にもなりました。

仮設住宅を回り始めて2日目にお年寄りの女性にお会いしました。前任者が一度断られていたのですが「お役に立てることがあるはず」と声をかけました。ご主人と息子さんを津波で亡くされ、お孫さんと避難生活をしている方です。1時間以上、被災時のこと、その後の生活などを話してくださいました。最後に「今日来てくれてありがとう。何か楽になりました。私だけでは決められないので、孫に今日の話を話してみます」と言われ、その場を去りました。翌々日訪問してみるとカタログを

見て注文を決めているところで、配達のご利用となりました。さらにご親戚を紹介してくださり、その方を訪問すると「あの人が言うのなら」と配達のご利用をいただきました。「真摯に話を聞き、相手の思いを少しでも受け止め、そして提案する」「組合員さんからご紹介をいただく」。生協の仲間づくりにおいて大事なことを改めて学びました。

派遣先生協の方には、丁寧に教えていただいたこと、福島情報を教えていただいたこと、忘れることはありません。今の福島状況、そして福島の素晴らしさを広げていくことで、少しでも今後の復興に貢献していきます。また、同じ生協という舞台で働いている仲間なので今後もともにそれぞれの地の生協を盛り上げていきましょう。

水本 啓治 (エフコープ) 期間 7月3日～8月6日 支援先 北支部

仮設住宅の入居状況地図ができていた所は大変助かりましたが、仮設住宅では70～80代の方が多く、記入書類が多くて手間取り、少し困りました。

被災地では、60代の方で息子さん夫婦、お孫さんを亡くし、死亡の手続きがあるが気持ちが落ち込んで気力がないという方、家が津波で流され跡形もないという方、原発事故のため、家はあるがいつ帰れるか不安だという方などがいて様々でした。

活動はパートさんからのTELアポでカタログを届けるだけと思っている方も多かったので、少し時間をとって案内する行動をとると良かったと感じました。またコープ利用ガイドを事前に送っていただけたら良かったと思います。

逆に良かったのは、フロント、副支部長、チーフの方々声かけです。担当者の数値報告(電話)に「大丈夫? 気をつけて。安全運転で」と労いの言葉をかけたり、取り組みの成果が出た担当者やグループを帰所後にほめているところは本当に素晴らしく思いました。担当者の元気が出る秘訣はこれだと感じました。

北支部の方には大変良くしていただき、他生協との違いなどが勉強になりました。ありがとうございました。

福田 和幸 (ララコープ) 期間 6月6日～7月1日 支援先 北支部

出勤すると、各自のトレイに配られているアポの確認と当日のスケジュールをタスクリーダーに提出、アルコールチェックを行い、タスクチーム朝礼、配送チーム朝礼に参加します。サンプルの準備をし、服装はワイシャツ、ネクタイ着用で活動に出ます。

コープふくしまの成約時のスタイルは商品訴求よりも安価な商品を案内し、お得感を前面に出したスタイルでしたが、自分は商品の良さをアピールする形で活動を行いました。口座登録は基本的にクレジットを勧めるように言われていましたが、活動のメインが仮設住宅だったため、クレジットの申し込みをいただくことはほとんどありませんでした。成約した場合の事務処理としてフォローカード(引継ぎ表)の作成を行いました。成約時にいただいたお話で特徴のある意見などは週単位で共有化しました。

最初、実績を求められることに対するプレッシャーから思うような活動ができませんでした。しかし、同僚の濱口さんをはじめ他の支援メンバーの支えがあり、自分らしい活動ができたと思います。他県で仲間づくり活動を行うことは初めてであり、コープふくしまの方々も初めてのことで互いに慣れない部分も多くありましたが、お互いが意見を出し合うことでより良い活動ができたと思います。

濱口 賢二 (ララコープ) 期間 6月6日～7月1日 支援先 北支部

拡大課題推進は、拡大タスクが主体として活動していて、営業車両、携帯電話、サンプル、リーフレット等のハードやツール面も整備されており、拡大タスクもネクタイ着用でほぼ全員の身なりや身

だしなみも整えられていました。

リーフレット関係では、CMより効果的で安価なカラーチラシや不在者宅投函用があり、加入者への利用ガイドがありました。個人情報の管理はアタッシュケースを使用しています。実績は加入用紙、口座用紙が揃ってカウントです。訪問時の使用サンプルは種類、数量が多く、タスクの名刺の裏にメモ用の罫線があるのが便利だと思いました。これらのことは、ララコープでも取り入れるとプラスになると思います。

支援ではローラー活動が主体だったのですが、配送担当者と配送終了後に待ち合わせてアポ活動を行うことができました。1時、4時と活動終了時の1日3回、業務用携帯電話で実績を報告します。成約時は、商品力（美味しさや使い勝手）より価格訴求をし、また共済等の案内・訴求よりもまずは利用登録商品をと意識のようでした。タスクのアポは保留と考える方もいたり、タスクと配送担当者でアポ活動などの連携はあまり見受けられませんでした。

多少は実績も上げることができましたが、それよりも配送担当者から、濱口さんたち支援者が入ってくれて支部が明るくなり、雰囲気も良くなりましたよとの言葉を貰ったのが何より嬉しかったです。

小永吉 徹（エフコープ） 期間 6月6日～7月1日 支援先 郡山支部

支援の1ヵ月間は自分にとって長く、そして短くもある日々でした。最初に福島県新地町のとてつもない被災状況を見た時は言葉がありませんでした。しかし現地の状況を知ることによって、その後の「お役に立ちたい」という気持ちがよりはっきりしたと感じます。

郡山支部ではTELアポ訪問（NTT）、地域訪問、仮設住宅訪問が中心でしたが、地域の人々と接することで、津波や放射能のことなどいろいろな声を聞くことができ財産となりました。

コープふくしまの方は今大変な状況の中で活動されていると思います。高岡町から郡山市の仮設住宅に1人で入居された70代の女性とお会いしました。「3月1週まで注文をしていた。でも震災のため商品が来なかった。自分も精一杯だった。また利用を検討したい」というお声でした。今後仮設住宅に移る方が多くなりますので、同じコープの仲間として、このような方々にも喜ばれる活動をしていきたいです。

石丸 健太郎（エフコープ） 期間 6月6日～7月1日 支援先 郡山支部

福島県は地震や津波の被害だけでなく、原発の風評被害など、私が思っていたより大きな被害を受けていました。避難所や仮設住宅に伺った時も「3月11日から時間が止まっている」「先が見えない」といった不安の声、怒りの声を聞きました。話の途中で泣き崩れる方もいました。子どもたちは気温30度を超える中、長袖で登下校をし、外を歩いている方はほとんどありませんでした。私たちが思っている以上に復興が難航している現状を目の当たりにしました。

そんな中で地域訪問をしてもまったくうまくいかず、どうやって生協のご案内をしていこうか大変悩みました。地域の方と向き合っていくうちに、この方が今何を必要としているのか、どんなことで困っているのか、私だったらどうしてほしいか、相手の立場で考えるようになりました。

そこでご案内からご提案に変えようと思い「生協を生活の一部に取り入れて活用していきましょう」という話をしてみました。すると、こんなこともできるね、それいいね、と対象者から笑顔が出たり、会話が弾んできたりしました。その対象者を見て、改めて営業と生協のご案内は違うと実感しました。

活動する中で気づいたことがもう一つあります。それはどこに行っても逆に私が励まされていたことです。そんな余裕はないはずなのに、「長袖着なさい」「体に気をつけて」と自分より先に人を思いやる被災地の方の精神に心を打たれました。感謝の気持ちや思いやりなど、言葉では簡単に言えますが、実際はできていないことが多いと思いました。この気持ちを常に忘れず、これからも人と接して

いきたいと思います。そして私が見たことや感じたことを広めていく、それが私にできることだと思っています。

課題としては、事前に資料があれば良かったと感じました。加入の手続きなどが全然違うので、事前に知っておけばもう少し現場で早く行動できたと思います。新規加入時に書いてもらう書類も多すぎて、余り親切ではないと感じました。

まだまだ、生協のことを知らない方がたくさんいます。一人でも多くの方にお役に立てるように、日々声かけをしていきましょう。

村上 英喜 (エフコープ) 期間 6月6日～7月1日 支援先 郡山支部

4週間という支援期間でしたが、システムの違いや知らない土地での仲間づくりの難しさを実感しました。私自身が今後エフコープで働いていく上で必ず役立つ経験だったこと、今後の人生の大きな起点になることは間違いありません。貴重な経験をさせていただいたことに心より感謝し、今後の仕事の中で恩返ししていきます。

気づいた点は、半日でもよいので配達に同乗できると良かったこと、10時～19時の勤務時間だったがフレックスの方が良い、支援者はペアでの活動日を設けても良いのでは、などです。

コープふくしまの前向きな姿勢と伝統に感銘を受けました。震災からの復興には時間がかかると思いますが、全国の生協の仲間や組合員が応援しています。

牛島 祐幸 (エフコープ) 期間 7月6日～8月6日 支援先 郡山支部

ほぼ、地図からのローラー活動でした。地域でまだ生協の存在が浸透しておらず、説明に苦労しました。それだけに、自分が生協の基本を今までお伝えできていなかったと反省する良い機会になり、もっと生協を知っていただく活動の大切さを痛感しました。

仮設住宅を訪問した時に、まだ引っ越したばかりで忙しいにも関わらず、嫌な顔をせずに笑顔で話を聞いて、最後にはご苦労様と一言くださる方もいました。中には津波で何もかも失った方や原発地域から避難して一度も家に帰ることができていない方など、大変な思いをされているのに明るく対応していただき、逆に元気づけられる場面が多くありました。

気づいたことは加入手続きの煩雑さで、これを改善できたら推進担当者、対象者にとって便利になると思います。また、担当者との連携をもっと進めたほうが活動も円滑に進むような気がします。

派遣先の皆様には1カ月間大変お世話になりました。復興には時間がかかると思いますが、一時的な支援ではなく継続的なものになるよう我々も応援します。一緒にがんばりましょう。

森 英子 (エフコープ) 期間 7月4日～8月5日 支援先 郡山支部

生協の認知度が低い地域のため、カタログを見てもらうまでが大変でした。担当者の現場アポが少ないため常に自力ローラーでの活動で、毎日自分との戦いでした。

カタログの内容が違い、コープ商品の説明はできても他の商品の説明に戸惑いました。自力ローラーをしている時、半年前に福岡から福島に来て被災した方にお会いしましたが、エフコープを利用させていただいていた方でした。被災されてとても辛いと思うのですが、前向きに生きていらっしゃいました。カタログの説明を聞いてくださり、加入第1号の方となりました。戻る日に挨拶に伺うと「森さん、これからも生協を続けていきます」と言われたことが、私には一番心に残っています。

支援活動で利用したのはサンプル(大豆の会、木綿豆腐、絹豆腐、油揚げ、納豆)で、木綿豆腐がとても美味しくお勧めしやすかったです。また郡山では利用登録に力を入れていて、種類がとても多く、共済よりも利用登録でした。

私にとって、自力ローラーの忍耐力、精神力が養われ、勉強になりました。お互いがんばりましょう。

富樫 亘 (共立社) **期 間** 6月13日～8月5日 **支援先** 郡山支部

宮城や岩手の被害状況はテレビで見えていましたが、福島はよく分からないところもありました。初日に被災地を見学したら、言葉も出ませんでした。また仮設住宅を訪問中に、富岡、川内、葛尾から避難してきた方々とたくさんお話をしました。「早く戻りたい」との声に一番心を打たれました。

訪問活動では、生協の知名度がかなり低いことが分かりました。これをプラスに考えれば今がいい機会。何度も足を運んで一人でも多くの方と話をし、生協を、自分を知ってもらうことで利用につながっていくはず。一人暮らし、二人暮らしの高齢者も多く、必ず役に立つと思います。

支援活動で学んだのは、話をする大切さ。何度も足を運んで生協の良さを理解してもらい、広めること、初めて会う方で生協に興味があれば、その場で決めてもらえるよう熱意を持って話をする事です。またアポも重要で、担当者とタスクの関わりが大切だと思います。共立社に戻り、タスクチーフ、タスクと今まで以上に関わりを持って問題を出し合い、支部全体で高い意識を持って拡大に取り組んでいきます。

伊田 慎吾 (大阪いずみ市民生協) **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 郡山支部

ローラー活動をしてみると多少の地域差がありましたが、基本的には大阪と変わらないと感じました。放射能のことは大阪でも騒がれており、支援活動で勉強したことを組合員さんに伝えたいと思います。郡山支部の方々は原発の問題に負けず、これからも多くの人に生協の良さを伝えていってください。

鎌田 裕彦 (大阪いずみ市民生協) **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 郡山支部

生協は生産者と消費者を結びつける役目を果たしています。ずっと付き合える食品、愛着の持てる生產品、生産者を育てていきましょう。また、消費者同士が助ける、助けられるという関係を築くことも大切。助けることに参加することが生協らしさだと思います。

郡山支部で組合員同士のコミュニティを育む取り組みを強化すると思います。さらに10年、20年先も生協を使い続ける組合員を育てることで、生協が家族のような暮らしのパートナーになれると思います。

なでしこジャパンを見て感銘を受けた言葉に、「選手が自分らしさに自信を持つことが最高の戦術」というのがありました。生協という組織がそうあってほしい、生協が一体となって機能すれば大きな力を発揮すると思います。

富江 泰三 (大阪いずみ市民生協) **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 郡山支部

生協の認知度、信頼度がいかに大切かを痛感しました。生協を知らない方へ分かりやすく説明するために、改めて生協とは何かを考える良い機会となりました。

郡山支部の方々は震災の中、2,000人拡大の奮闘、ご苦労様です。支援参加して皆さんの努力を肌で感じ勇気づけられました。特に8月2日は全員が成果を上げ、すばらしい1日でした。ベテラン、新人を問わず実績の上まっている方には必ず理由があります。また実績に関わらず、日々の活動の中で嬉しかったこと、悔しかったことなどエピソードがあるはず。マネージメント側はその中から教訓を引き出し、皆が分かる形に提示すること、また現場の皆さんは率先して周りの人に学ぶことがさらなるスキルアップにつながっていくと思います。その意味でも、朝礼あるいは終礼で、1件でいいから15分程度経験の交流をすることをお勧めします。

私もまだ半人前ですが、営業は謙虚に学ぶことが仕事の一つと思っています。対象者に自分の意思が伝わったか、相手を理解して的確な提案ができていくか、いつも発見があります。

支部の皆さんの団結力があれば目標を達成できると信じています。がんばってください。

村瀬 剛 (ララコープ) **期 間** 7月4日～8月5日 **支援先** 相双支部

震災から4ヵ月ほど経っていましたが、未だにその爪跡が残っている状況でしたので、被災地の方たちに仲間づくり活動が受け入れられるのかと大きな不安がありました。

しかしそれは自分の勝手な先入観で、実際に被災者の方々とお話をしてみると、普段の仲間づくりと何も変わりませんでした。訪問時に断られる場合も、「お疲れ様」「力になれなくてごめんなさいね」と気遣ってくれる方ばかりでした。自分のことで精一杯のはずの被災者の方々からの思いやりに、支援に来ている自分の方が逆に励まされる機会が多かった気がします。

避難した方の加入を受け付けている際に、「福島産のものは避けたい」と言われたことが印象に残っています。その方は「生協のカタログにはしっかりと産地の表記がしてあり、自分が望む商品を買うことができる」ということをご加入いただいたのですが、とても複雑な気持ちになりました。言葉には出さなくても同じように考えている人はもっとたくさんいたのかも知れません。放射能についての研究が進み、誰もが安心して福島県産の食品を食べられる時が一刻も早く来ることを願っています。

相双支部の皆さん、また研修や交流会を開催して下さったコープふくしま、サンネットの方々に感謝しています。見知らぬ土地での活動で、はじめは不安ばかりでしたが、皆さんの気遣いのおかげで最後までがんばり通すことができました。他生協の方たちとの交流で、自分自身の活動を見直すこともでき、大変勉強にもなりました。

コープふくしまが震災以前の経営状況を取り戻すには大変な時間を要するかと思います。でも必ず立ち直ると私は信じています。今回の支援で、私はごくわずかし力になれませんでした。しかし、そんな力が全国の生協から集まって、一丸となって活動したという事実が少しでも心の支えになればと思っています。

林田 俊哉 (ララコープ) **期 間** 7月4日～8月6日 **支援先** 相双支部

仲間づくりの支援要請に、自分で意思表示して参加しましたが、役立ったのかは甚だ心もとなく感じています。ただ個人的には全国生協支援活動の一員として参加できたこと、相双支部に配属され、いい支部の仲間や同じ支援者の共立社(山形)の仲間と1ヵ月間仕事をともにし、連帯を体感することで生協運動の大切さに確信を持つことができました。

福島は、地震、津波、放射能に見舞われた地域で、私たちが訪問した仮設住宅は沿岸部の方々です。家はほとんどが流失や全壊、大切な家族を亡くされた方も多くいます。当初はどう接したらいいか不安でしたが、「暑い中ご苦労様」「がんばってください」と、本当にありがたい言葉をいただきました。その方々に加入していただけなかったのは、全くスキル不足で残念でなりません。

相双支部は昨年対比でやっと60%の回復状況と運営は厳しく、さらなる活動の強化が必要ですが、皆さん力を合わせて前に進もうとがんばっています。復旧までは先が長く、息の長い支援が必要だと強く感じました。皆さんが一丸となって前向きに明るく活躍することを期待し、私も気持ちとしては「コープふくしま相双支部ながさき営業所」として皆さんに負けないようにがんばります。

高橋 政行 (共立社) **期 間** 6月27日～8月5日 **支援先** 相双支部

被災者の方は生きていかなければいけません。前を向いて明るく笑って話をしてくださいました。生協を利用していただいている方から「助かっている」との声が多く、さらに多くの方に生協を伝えていかなければならない、そのために「歩く」「会う」「伝える」の3つが重要だと思いました。

学んだことを山形に帰って実行し、仲間づくりの輪を広げて、もっともっと組合員に喜んでもらえるようにしたいと思います。

手塚 直 (共立社) **期 間** 6月27日～8月5日 **支援先** 相双支部

被災された方に営業に行ったらそれどころではないとお叱りを受けるのではないかと思いましたが、皆さん思っていたよりずっとお元気でした。

支援活動で、他生協の方々からいろいろな営業方法、相双支部のコスト削減への取り組み、朝礼での資料の多さから難しいことでも下まで伝えることの大切さを学びました。そして自分の生協において、一人一人がスキルアップできるよう、タスク、担当者、全員へ成功・失敗事例を伝えます。そのため伝えたいことは壁に貼ったり、場を設けて交流していきます。

支援に当たり、同僚の高橋さんと一緒に福島の方に何か喜んでもらえることはないかと考えて工夫したのがバルーンアートです。支援日の1週間前に雑貨店で風船を買い込み、説明書を見てさくらんぼの作り方を覚えて行きました。ローラーで小さなお子さんがいる方へプレゼントしたら、思った以上に喜んでくれました。震災の苦しみの中でも、少し心がほんわかしてくれたらいいなと思います。

パルシステム福島

和田 美香 (パルシステム山梨) **期 間** 7月10日～7月15日 **支援先** 郡山拡大事務所

パル東京の島津さんから報告があったクリーミーヨーグルトの有効活用、試してみました。訪問している場所が個人の商店街です。ある電気店に数名のマダムが談笑しているのを見て突撃しました。ヨーグルトへの反応は皆さん良かったので、様々な世間話も盛り込んでグループを勧めましたが、残念ながら加入とはなりません。でも思い切りやったという満足感があり、今後の自信につながりました。地元に戻って実践します。

細川 泰子 (パルシステム連合会) **期 間** 7月10日～7月15日 **支援先** 郡山拡大事務所

訪問先は、他生協を利用している方、二世帯の方が多かったです。支援に行き、初めて加入していただいた1件が嬉しかったです。しかし加入手順を進めるのに手間取り、説明と合わせて50分ぐらいかかりました。短縮することが必要だと思いました。食品に興味のある方でしたが、もっといろいろな方に提案する相対ができるようにしたいと思います。また、赤ちゃん特典の方へもっと強くお勧めできるようにします。

原田 郁実 (パルシステム連合会) **期 間** 7月24日～7月29日 **支援先** 郡山拡大事務所

久しぶりの戸別訪問となりました。天候に悩まされることもあり、大変な仕事だと思いましたが、やはりこの仕事が好きです。

支援活動は、福島の方々が何を求めているか、私たちに何ができるかを考えるきっかけになり、感謝しています。これからも福島が再び立ち上がるまでずっと支援は続きます。今回の支援だけに終わらず、自分の仕事を通じて福島のことを伝えていきたいです。

新田川 誠 (パルシステム茨城) **期 間** 7月24日～7月29日 **支援先** 郡山拡大事務所

5日間の福島支援で最低目標5件も未達で終わり、その厳しさを実感しました。3日間連続タコ日(成果ゼロ)という普段はないような悔しさを味わい、もっと日々努力が必要だと痛感。自分の課題となりました。

今回の経験を事務所で報告し、拡大目標を1人ではなくチームで達成する大切さを伝えたいと思います。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

椎名 一樹 (パルシステム千葉) **期 間** 7月10日～7月15日 **支援先** 郡山拡大事務所

楽しく戸別訪問をすることができましたが、6件という目標には届きませんでした。この悔しさを忘れないで、これからの日々をがんばります。

「うちわ」は笑いを取れる効果的なアイテムでした。これを出しただけで、訪問先の方が笑ってくださいました。1週間お世話になりました。

※パルシステム福島支援者の振り返りについては日報から抜粋しました。